

【質疑応答】

- 中国新聞 具体的な課題はどんなものが今回出されているのでしょうか。いくつか例を挙げていただけたら助かります。
- 教育長 〔事務方に向かって〕もう決まっているんですかね。
- 意不登校支援センター長 まだ具体的な課題というのは決まっていらないのですけれども、一人でできるリフティングであるとか、あるいは2人でパスをし合って、何回続くかなというような、一人から数人でチャレンジできるものをこれからサンフレッチェ広島さんとも連携を行いながら、随時発信していきます。
- 中国新聞 何回か配信されるものということですか。
- 意不登校支援センター長 そうです。今回だけではなく、今回は第1回目ということで、何本か考えています。
- 中国新聞 サンフレッチェさんと何本か。
- 意不登校支援センター長 そうですね。
- 教育長 そのうち子供が自分の動画でこうやってみて、その中で競い合うとか、いろいろ子供たちからこういうことやってみたいとかまた出てくると思いますので。このオンラインクラブ活動の子供たちにもいろいろ意見もらいながら、こういうことってできないですかというようなことも、お願いしていきたいなと思っております。
- 森崎アンバサダー 少しでもサッカーに興味を持っていただいたり、それから宿題チャレンジではないですけど、少しずつグレードアップというか、最初は簡単なものから、選手にも協力していただくので、少し難しい技でしたり、そういったものを成功できるようになることで、子供たちの気持ちの面で前向きになったり、少しでも自信が付いたり、そういったものを身に付けてもらえたらなと思います。やはり、人との関わりを少しでも、特になかなか学校に行けない子でしたり、少し苦手な子、いらっしやると思うので、そういう子供たちが集まって、人との関わりがオンラインの中でもできるようになれば、サッカーってそういうチームスポーツなので、関わりもできると思いますし、これから社会に出ていく可能性のある子が少しでも社会性を身に付けたり、そういった手助けができればいいなとは思っています。
- 教育長 今の子供ってちょっと自分と人との関わり合いとか、あるいは自分と物、例えばバレーボールでも、サッカーでもボールとの関わり合いが〔希薄で〕、前にぼんと落ちてきて、ああ落ちたみたいなのがやっぱりいるので、そういう運動が苦手という子もできるようなプログラムにさせていただけると良いかなというか、うれしいなと思います。
- 森崎アンバサダー はい。まずは1人でできるもの、それから、それが複数人でできるものということをし考えながら、協力していければなと思います。
- 読売新聞 まず、アンバサダーにお伺いしたいんですが、動画にはアンバサダー自らも御登場されるのでしょうか。
- 森崎アンバサダー はい。難しい技はできないと思いますが、まずは、僕は簡単なものを提供できればなと思いますし、現役選手に少しずつ難しい技をしてもらいながら、そこにチャレンジしてもらうような形ができればなと思います。もちろんサッカーをやっている子もいれば、全くサッカーに触れ合ったことがない子もいると思うので、まずはボールの足で扱うという難しさを体験してもらいながら、少し簡単なメニューでしたり、簡単な宿題チャレンジというような形を出していければなと思います。僕自身そんなに足技が得意な方じゃないので、簡単なものを出していきたいなと思います。
- 読売新聞 これからの動画には現役選手も〔登場される〕とおっしゃいましたが、例えば大迫

選手や佐々木選手のような誰でも知っているような選手も登場すると期待していいでしょうか。

森崎アンバサダー はい。しっかりと伝えておきます。

教育長 御協力いただけるとありがたいです。

読売新聞 具体的にいつから公開されるんでしょうか。

読売新聞 この7月、近日中には最初の1本目を出したいと思います。

読売新聞 はい、分かりました。では、教育長に伺いたいのですが、先ほどもコロナという言葉も出ましたが、必ずしも不登校の子供のためだけではなくて、コロナで、ない方がいいですけど、またちょっとオンライン〔授業〕になったり、学校に行けなくなったり、そういう全ての子供たちのためにという理解でよろしいですか。

教育長 そうですねオンラインクラブ活動は、不登校の子供たちが今のところ中心ではありませんけれども、今回のサンフレッチ広島からの挑戦については、どのお子さんでも、夏休みなんかでも、ちょっと家にいなきゃいけないというようなお子さんとかもいたらですね、家で〔挑戦〕できるような形でと思っています。

《県立高等学校の学科の再編について》

中国新聞 2年生以降の学び方なんですけども、選択履修ということですが、コースのような感じで分かれるんでしょうか。それとも、みんな一緒の土台にいつつ、それぞれが選ぶというイメージなんでしょうか。

教育長 もちろん共通の教科も出てきますが、全て選択というわけではなくて、共通のものもあれば、選択をしていくというもの、両方出てくるかと思います。どちらにしても、商業高校もいわゆる5教科というか、国語・数学・社会・理科・英語みたいなことをやらなきゃいけないんです。その中で、情報にすごく特化して情報をメインでやるのか、それとも、会計学、簿記ですね、資格取得というようなところに重きを置くのか。それとも、マーケティングとかですね、様々なものを経営マネジメントということでやっていくか。それは子供たちの類型という形でしょうかね。一部、その選択が変わってくると思っていただけると分かりやすいかなと思っています。

中国新聞 きっぱり分かれるというよりは、共通科目も選択科目もあるということでしょうか。

教育長 そうですね、今の2年生、3年生はそういうような要素もあるんですけども、そこをさらに1年生から分かれて、1年生も2年生も3年生も同じクラスではなくて、大卒でとって共通のものもあれば、それぞれ分かれて選択するものもあればというふうに変わってくると思っていたらと思います。〔これまでのように〕1年生のときに〔学科を〕決めなくてもいいということですね。やってみないと分かりませんので、中学校3年生ではちょっと決めかねると思います。私は国際ビジネスをやるのか、それとも、情報システムをやるのかって。結局、両方必要なんですけどビジネスには。

中国新聞 今回の生徒は、そのままの学びのスタイルということですか。

教育長 そうですね、学科改編は来年度からという形になりますので、今、入学してらっしゃる生徒さんは、今のこの学科で募集をして、卒業ということが前提で、入試も受けていただいているので、そのまま引き続きという形になります。今度の1年生からというふうにお考えいただければと思います。

中国新聞 令和5年度末をもって〔既存の学科が〕廃止ということで、例えば学科が増えるということではないということでしょうか。

教育長 そうですね。ただ、高校の履修〔科目〕とかも変わってきますので、授業は、今年と同じですかと言われたら違ってくる場所もあるかもしれませんが、その方々は、今の

学科改編前の学科で納得して入学していただいているので、そのままで行きます。

読売新聞 今の話で確認なんですけど、2年生になって選択〔科目〕でクラス分けするわけではないんですね。

教育長 はい。〔事務方に向かって〕補足があれば。

杉本学校経営戦略推進課長 2年生になって〔何とおっしゃいましたか〕。

読売新聞 選択した履修科目ごとにクラス分けするわけではないんですよ。

杉本学校経営戦略推進課長 教育長から個別最適な学びとありましたが、1年でしっかり自分の将来、こういった方向に行きたいかというのを踏まえた上で、何を選択していくか、多様な科目から選択するイメージです。そこは、教員のガイダンスも大事になってくるので、しっかり教員と生徒が話をしながらというイメージです。

読売新聞 あと、いただいた資料の3ページ目に、その4校の〔入学〕定員が書いていますけれども、例えば、広島商業高校だったら今全部で320人ですかね。それぞれ一つの学科になって、入学定員はどう変わるのでしょうか。

教育長 基本的には今と同じような形だと思っております。

杉本学校経営戦略推進課長 例年9月に入学定員というのは発表しますので、正式にはそこで発表します。

読売新聞 やはり少子化も進んでいますので、再編となると〔入学〕定員が減るのではないかというのが保護者の方、子どももそうですけれども、1番の関心というか不安点でもあると思うんですが、その方向は考えていらっしゃると思っていいますか。

教育長 〔志願者数は〕基本的に増えるというふうに子どもは見えてまして、例えば、今年なんか、福山商業高校は、去年から商業〔高校〕アップデートというのをやっていたところ、今の高校2年生が1年生の時に「福山商業高校良いよ」と言って、インターネット上とかSNSで後輩に向けてメッセージを送ってくれた結果、福山商業高校はすごく人気校になっているんですね。やはり、生徒に求められているもの、これは時代性だったり、あるいは本当にやりたい勉強ができるんだよということだったり、将来にこれは役に立つというふうに子供たちが思えばですね、それは、人気校になると思いますので、人数的なところは基本的には、まだこれから〔中学校3年生の〕生徒数によって、全体が変わってくるわけですが、基本的には変えない形で思っております。

読売新聞 原則としては、定員は減らさないということですね。

教育長 むしろ、それ以上来てくれて選べるというふうにしていきたいと。

読売新聞 増えることもあるんですかね。定員が。

教育長 超人気校になったらですね。

読売新聞 なるほど、それはまた次の話ということですね。分かりました。ありがとうございます。